

子どもの読書活動に関するアンケート(2025)調査報告

1. 調査の目的

第2次成田市子どもの読書活動推進計画の推進にあたり、市内児童・生徒の読書活動の実態を調査し、評価指標等に係る基礎資料とする。

2. 調査概要

市内児童・生徒の読書活動の実態を把握するため、アンケート調査を実施し、集計及び分析を行う。回答方法は、小・中学校についてはLoGo フォームによるインターネットアンケートを実施し、高等学校については、生徒への端末の環境整備状況に合わせて、アンケート用紙による調査も実施した。

なお、このアンケート調査における「本」には、紙の本のほか、電子書籍も含むものとし、教科書や参考書、漫画、雑誌は含まないものとする。

3. 調査対象者

調査区分	調査対象者
小学6年生	小学校6年生(20校)、義務教育学校(前期課程)6年生(2校)
中学3年生	中学校3年生(9校)、義務教育学校(後期課程)9年生(2校)
高校2年生	市内の高等学校2年生(5校)

4. 調査期間

2025(令和7)年7月1日(火)～7月31日(木)

5. 回収結果

	依頼数	回答数	回答率
小学6年生	1,103 人	1,003 人	90.9%
中学3年生	1,246 人	1,074 人	86.2%
高校2年生	1,004 人	643 人	64.0%

6. 調査の結果

数値の取り扱いについて

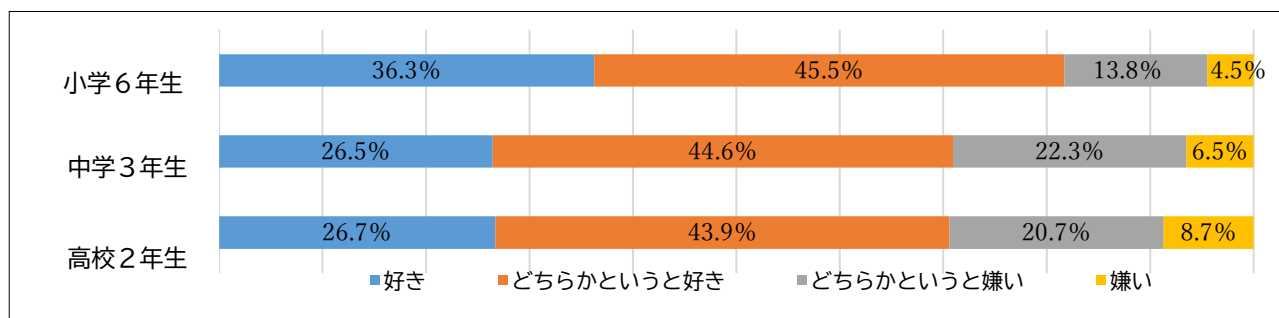
- ・比率は百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出する。したがって、合計が100%とならない場合がある。
- ・複数回答の場合は、各回答の合計比率が100%を超える場合がある。
- ・図表中の設問の選択肢は簡略化している場合がある。

本報告書では、アンケート内の設問 Q3.(高校2年生においては Q4.)の「あなたは、本を読むことが好きですか」を「問 1.」として、調査の結果をまとめている。

子どもの読書活動に関するアンケート(2025)

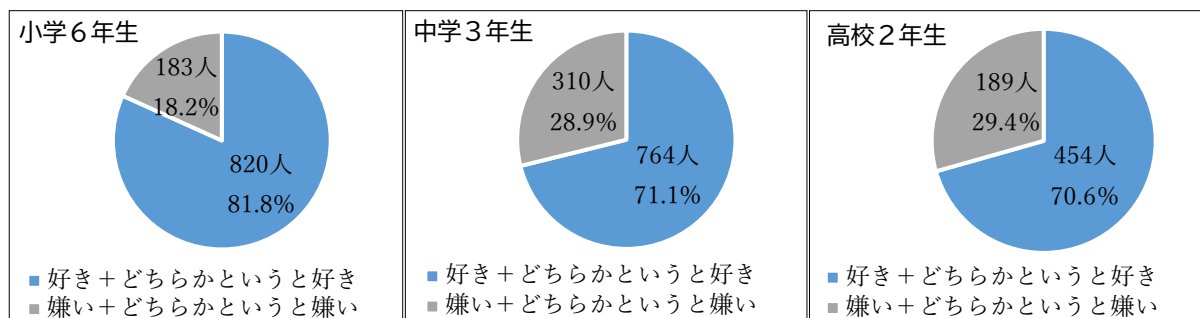
問1. あなたは、本を読むことが好きですか。

	小学6年生		中学3年生		高校2年生	
好き	364 人	36.3%	285 人	26.5%	172 人	26.7%
どちらかという好き	456 人	45.5%	479 人	44.6%	282 人	43.9%
どちらかという嫌い	138 人	13.8%	240 人	22.3%	133 人	20.7%
嫌い	45 人	4.5%	70 人	6.5%	56 人	8.7%



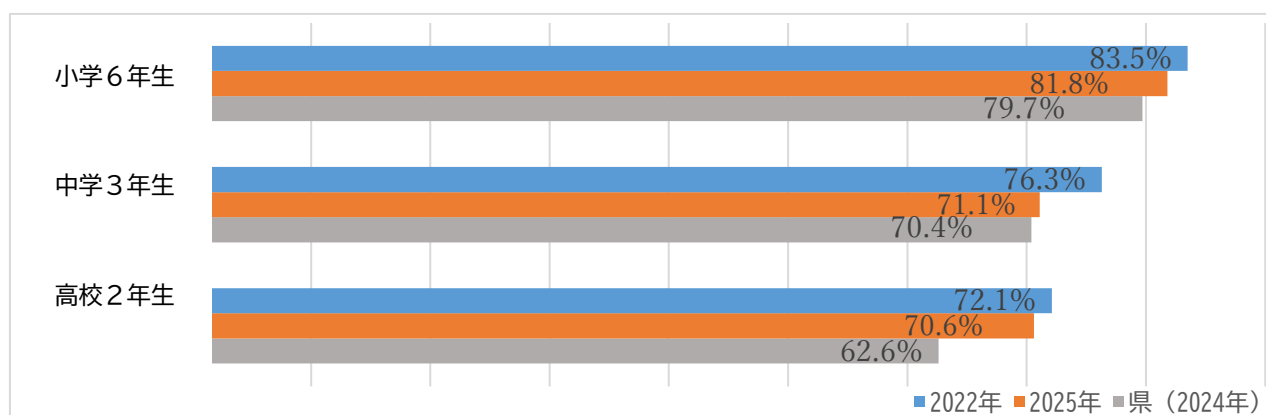
「好き」と答えた割合は、小学6年生が一番高く 36.3%、次いで高校2年生が 26.7%、中学3年生では 26.5%である。

読書の好きな子どもの割合



「好き」と「どちらかという好き」を合わせた、「読書の好きな子ども」の割合は、小学6年生が 81.8%と最も高く、中学3年生は 71.1%、高校2年生は 70.6%であり、年齢が高くなるほど読書の好きな割合は低くなっている。

読書の好きな子どもの割合の推移



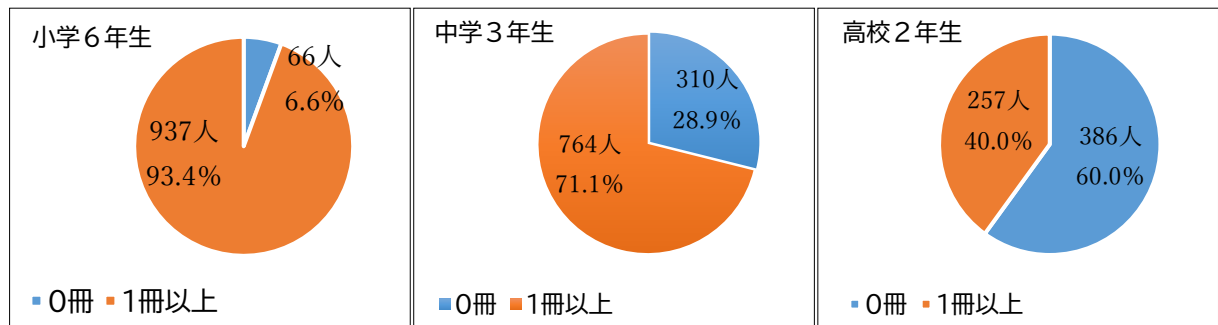
読書の好きな子どもの割合を 2022 年の調査結果と比較すると、すべての対象において、読書の好きな子どもの割合が減少している。小学6年生は 1.7%減、高校2年生では 1.5%の減少だが、中学3年生では大きく 5.2%減少している。

問2. あなたは、6 月の 1 か月間に、本を何冊読みましたか。

	小学6年生		中学3年生		高校2年生	
調査年	2022 年	2025 年	2022 年	2025 年	2022 年	2025 年
中央値	8 冊	6 冊	2 冊	1 冊	0 冊	0 冊
平均値	12.5 冊	15.4 冊	5.1 冊	3.5 冊	1.2 冊	1.9 冊

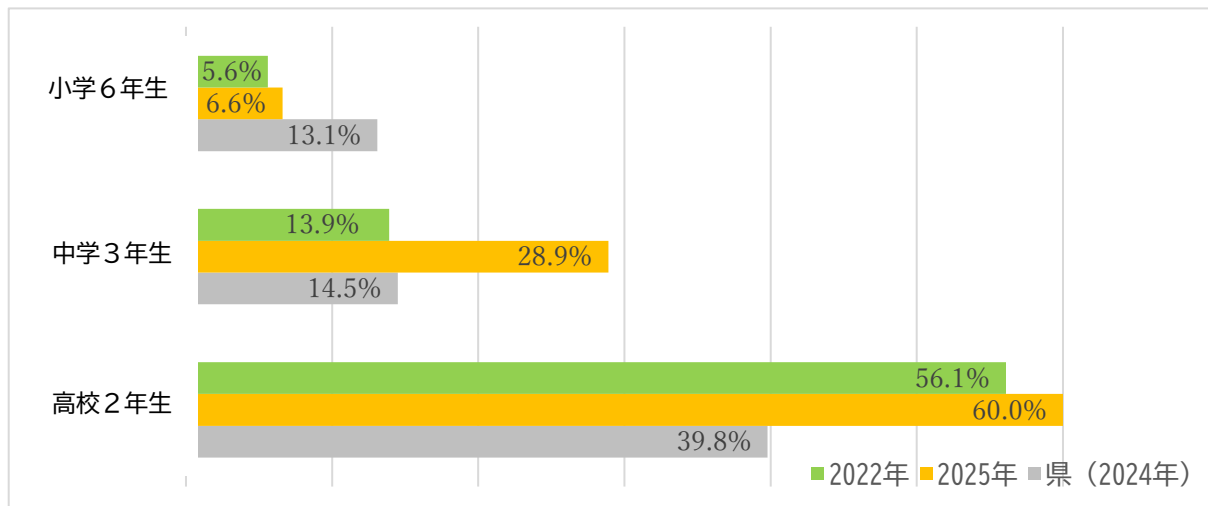
1か月の読書量は、小学6年生と中学3年生では、50 冊以上の本を読む児童・生徒がいるため、平均冊数が引き上げられている。小学6年生が最も多く、平均 15.4 冊、中央値では6冊であった。中学3年生では、平均 3.5 冊、中央値は1冊である。高校2年生の読書量は最も少なく、平均 1.9 冊、中央値では 0 冊である。

1か月に読んだ本が「0 冊」の児童・生徒の割合



1か月に読んだ本が「0冊」だった児童・生徒の割合は、小学6年生で 6.6%、中学3年生で 28.9%、高校 2 年生では 60.0%であり、不読率は、年齢が上がるにつれて高くなっている。

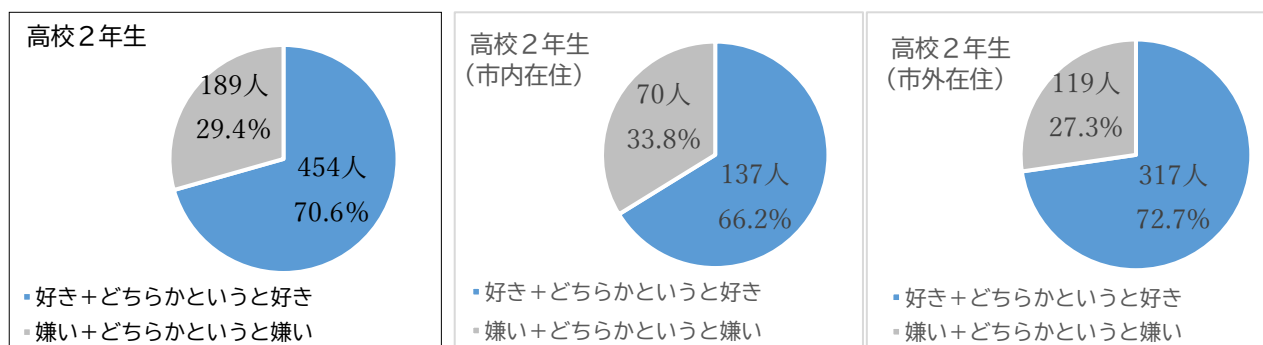
不読率(1 か月に 1 冊も本を読まない児童・生徒の割合)の推移



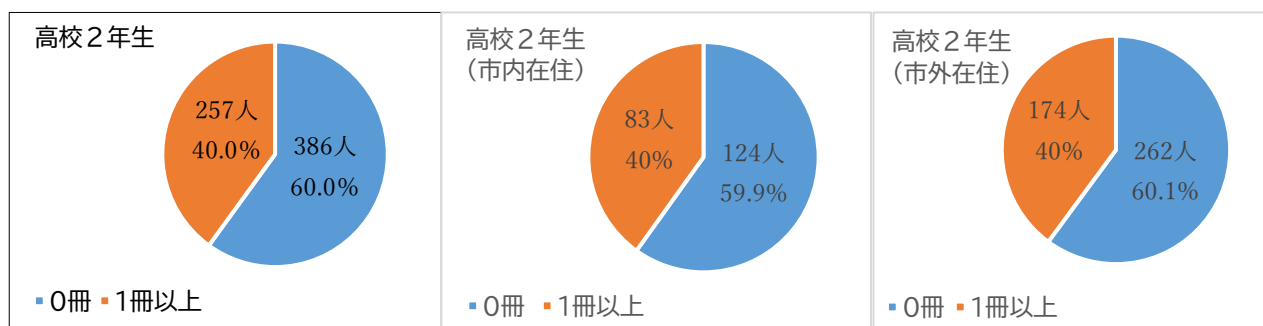
不読率を 2022 年の調査結果と比較すると、すべての対象で不読率は増加している。小学6年生は 1.0%増にとどまっているが、高校2年生では 3.9%増、中学3年生では大きく 15.0%の増加である。

高校2年生の居住地による比較

読書の好きな割合



不読率(1か月に読んだ本が「0冊」の割合)



1 か月当たりの読書量

	高校2年生	高校2年生 (市内在住)	高校2年生 (市外在住)
中央値	0 冊	0 冊	0 冊
平均値	1.9 冊	2.6 冊	1.5 冊

高校2年生の調査では、「あなたは、どこに住んでいますか」と質問を加え、「読書の好きな割合」、「不読率」、「1 か月当たりの読書量」について、居住地による比較をした。

読書の好きな割合は、市外在住の高校2年生が若干高いが、不読率はどちらもほぼ同率で、過半数の生徒が本を1冊も読んでいない。1 か月当たりの読書量で見ると、平均値に差が出ているが、中央値は0冊とどちらも低く、調査の結果に居住地による差は確認できない。

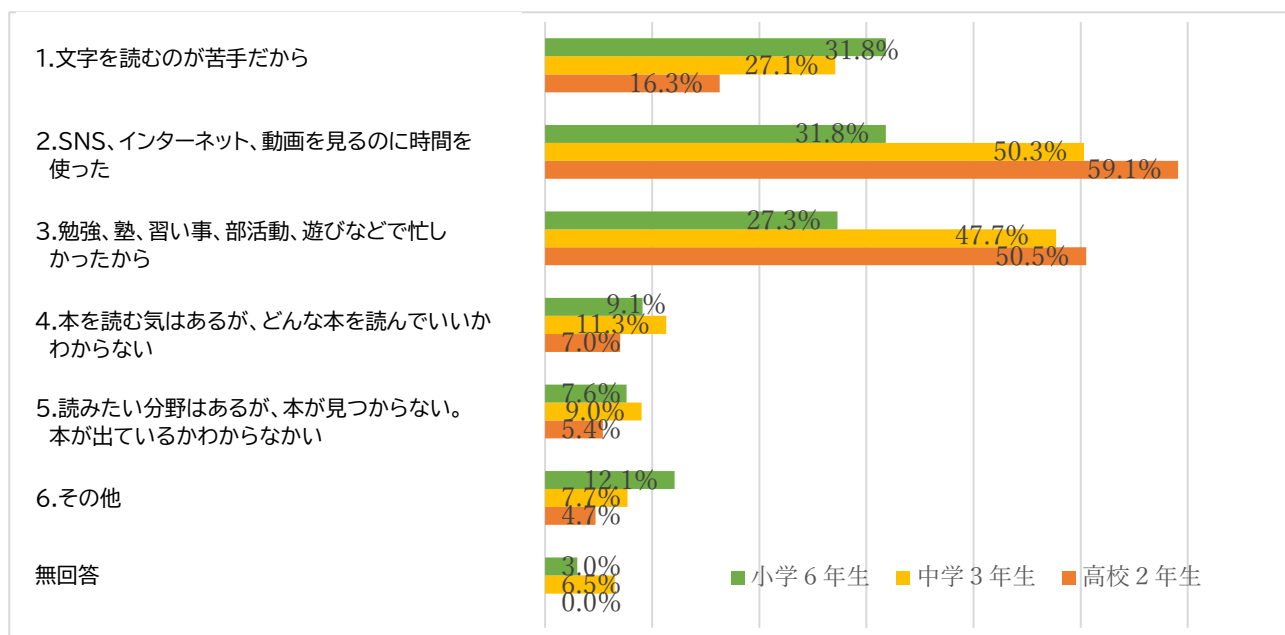
問3. 問2で答えた読んだ冊数のうち、電子書籍では何冊読みましたか。

	小学6年生	中学3年生	高校2年生
中央値	0 冊	0 冊	0 冊
平均値	1.9 冊	1.1 冊	1.3 冊
読んだ冊数中の電子書籍での割合	11.5%	21.7%	27.1%
電子書籍を読んだ人の全体の割合	32.7%	14.1%	11.0%

1か月の読書量のうち、電子書籍で読んだ冊数は、小学6年生が平均1.9冊、中学3年生は平均1.1冊、高校2年生は平均1.3冊である。無回答は、電子書籍で読んだ冊数は0冊と判断し、平均値、中央値を算出した。本を読んだ冊数中の電子書籍で読んだ割合は、小学6年生は11.5%、中学3年生は21.7%、高校2年生は27.1%と年齢が上がるにつれて高くなっている。また、電子書籍で本を読んだ人の全体から見た人数は、小学6年生が最も高く32.7%、中学3年生は14.1%、高校2年生は11.0%であった。

問 4. 問 2 で読んだ本が「0 冊」と答えた人に聞きます。

あなたが本を読まなかった理由は何ですか。(あてはまるものをいくつでも選んでください。)



〔その他回答〕 小学6年生

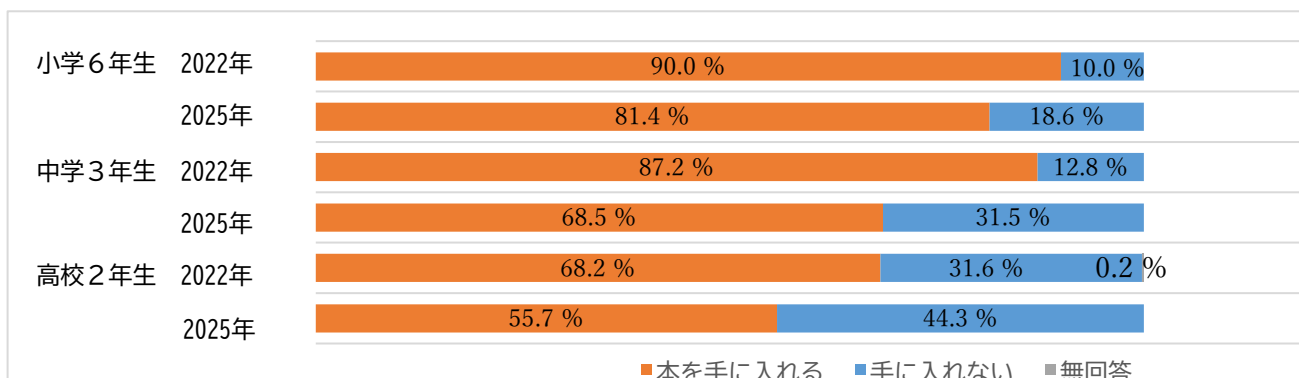
中学3年生

高校2年生

・本を読もうと思わない ・本を読むのが好きじゃない ・嫌いだから ・おもない ・つまんない ・めんどろ ・学校の委員会や漢字練習などをする ・漫画などをよく読み、電子書籍などの本を読まない	・読もうと思わない。読む気がない 11 人 ・興味が無い 2 人 ・面白くない ・本に興味が無いし、読みたいもない ・本が好きじゃない。読むのが嫌い 3 人 ・読みたい本がない。買うのがめんどろさい ・気になるものがあったとしても読む時間がない ・別に読まなくてもいいと思っている ・めんどろさい ・図書室に行くのがめんどろさい	・本を読もうと思わない。読む気がない 4 人 ・希望のジャンルがない ・面白くない 2 人 ・別に本を読まなくてもいいと思った ・興味ない ・登場人物の心情や伝えたいことを読み取るのが苦手 ・ほんとに読みたいと思う本があまりない ・買いに行くのが大変 ・わざわざ読まない ・特に理由はない ・めんどろ ・記入無し 3 人
---	---	--

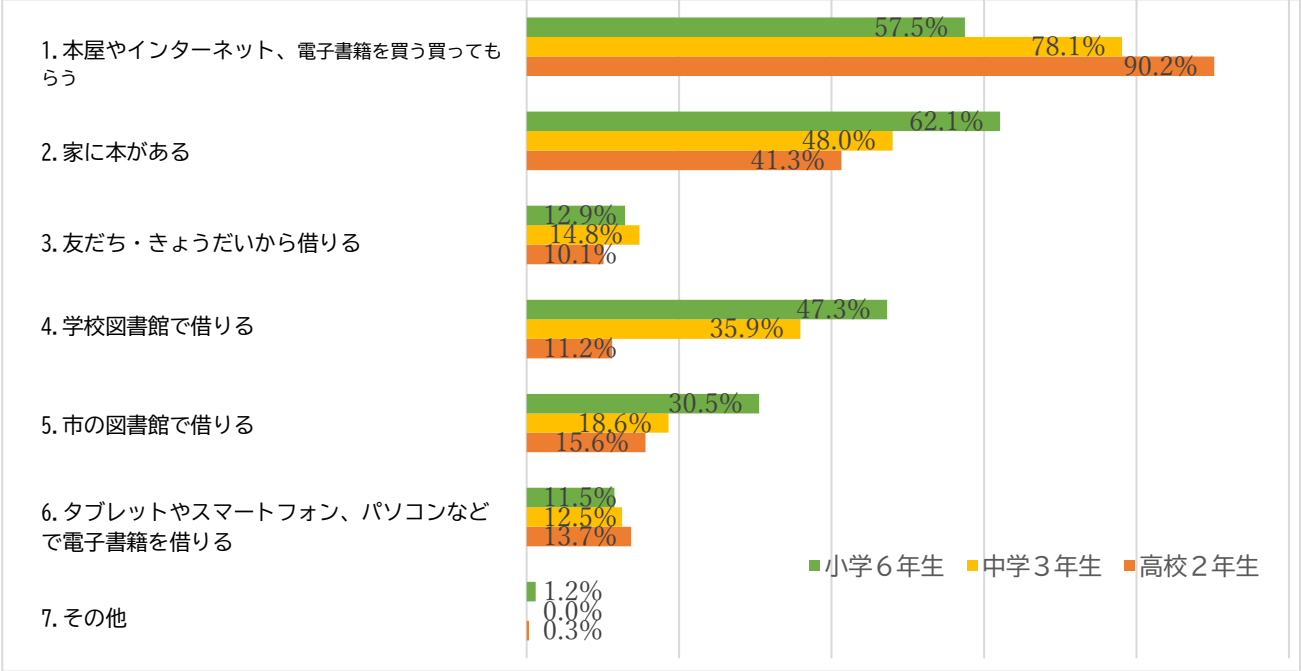
本を読まなかった理由としては、「SNS、インターネット、動画を見るのに時間を使ったから」が小学6年生、中学3年生、高校2年生の全てにおいて多い回答であった。小学6年生は、同率で「文字を読むのが苦手だから」が多く、中学3年生と高校2年生では、「勉強、塾、習い事、部活動、遊びなどで忙しかったから」が次に多い回答であった。これは、2022 年の調査結果と大きな差は出ていない。その他の回答としては、「本を読もうと思わない。読む気がない」「本が好きじゃない。本を読むのが嫌い」「面白くない」「めんどろさい」などの回答がみられた。

問 5. あなたは、本を手に入れること(買う、借りる)をしていますか。



本を手に入れると答えた小学6年生は 81.4%、中学3年生で 68.5%、高校2年生が 5.7%であった。
 2022 年の調査結果と比べると、小学6年生で 8.6%減、中学3年生は 18.7%減、高校2年生では 12.5%の減である。

問 6. 問 5 で「1.はい」と答えた人に聞きます。
 あなたは、読みたい本をどのようにして手に入れますか。(あてはまるものをいくつでも選んでください。)



[その他回答]

小学6年生

- ・1 から 5 年生の教科書や親がいなくなった教科書 2 人
- ・お父さんの友達からもらう
- ・いとこから借りる
- ・漫画のアプリで見ている
- ・本屋へ行って、買わないけど読む
- ・学校からもらった手紙から買う
- ・無料小説アプリ
- ・立ち読み
- ・スマホ

高校2年生

(記入無し)

本の入手方法は、小学6年生では「家に本がある」が最も多く、次いで「本屋やインターネット、電子書籍を買う・買ってもらう」が多い回答であった。中学3年生も「本屋やインターネット、電子書籍を買う・買ってもらう」が最も多く、「家に本がある」が続いた。高校2年生では「本屋やインターネット、電子書籍を買う・買ってもらう」が圧倒的に高い割合を占めている。

今回の調査から追加した選択肢の「タブレットやスマートフォン、パソコンなどで電子書籍を借りる」と回答したのは、小学6年生で 11.5%、中学3年生は 12.5%、高校2年生では 13.7%であった。

問 7. あなたは、6 月の 1 か月間に、マンガ・マンガ雑誌を何冊読みましたか。

	小学6年生		中学3年生		高校2年生	
調査年	2022 年	2025 年	2022 年	2025 年	2022 年	2025 年
中央値	5 冊	3 冊	3 冊	1 冊	2 冊	0 冊
平均値	15.9 冊	12.3 冊	13.5 冊	7.6 冊	6.2 冊	6.4 冊

マンガ・マンガ雑誌を読んだ量は、小学6年生が最も多く平均 12.3 冊、中央値 3 冊で、中学 3 年生は、平均 7.6 冊、中央値 1 冊である。本の読書量が少なかった高校2年生では、平均 6.4 冊、中央値 0 冊である。2022 年の調査結果と比較すると、高校2年生のみが増加している。

問 8. 問 7 で答えた読んだ冊数のうち、電子書籍では何冊読みましたか。

	小学6年生	中学3年生	高校2年生
中央値	0 冊	0 冊	0 冊
平均値	2.3 冊	5.0 冊	5.4 冊
読んだ冊数中の電子書籍での割合	13.1%	35.5%	41.9%
電子書籍を読んだ人の全体の割合	16.1%	23.2%	24.1%

1 か月にマンガ・マンガ雑誌を読んだ冊数のうち、電子書籍で読んだ冊数は、小学6年生平均 2.3 冊、中学3年生は、平均 5 冊、高校2年生は平均 5.4 冊、中央値はいずれも 0 冊である。無回答については、電子書籍で読んだ冊数は 0 冊と判断し、平均値、中央値を算出した。読んだマンガ・マンガ雑誌のうち、電子書籍で読んだ冊数の割合は、小学6年生は 13.1%、中学3年生は 35.5%、高校2年生では 41.9%と高い割合を占めている。また、電子書籍で本を読んだ人の全体から見た人数は、高校2年生が最も高く 24.14%、中学3年生は 23.2%、小学6年生は 16.1%であった。

問 9. あなたは、6 月の 1 か月間に、雑誌を何冊読みましたか。

	小学6年生		中学3年生		高校2年生	
調査年	2022 年	2025 年	2022 年	2025 年	2022 年	2025 年
中央値	0 冊	0 冊	0 冊	0 冊	0 冊	0 冊
平均値	1.7 冊	1.4 冊	0.7 冊	0.6 冊	0.5 冊	0.4 冊

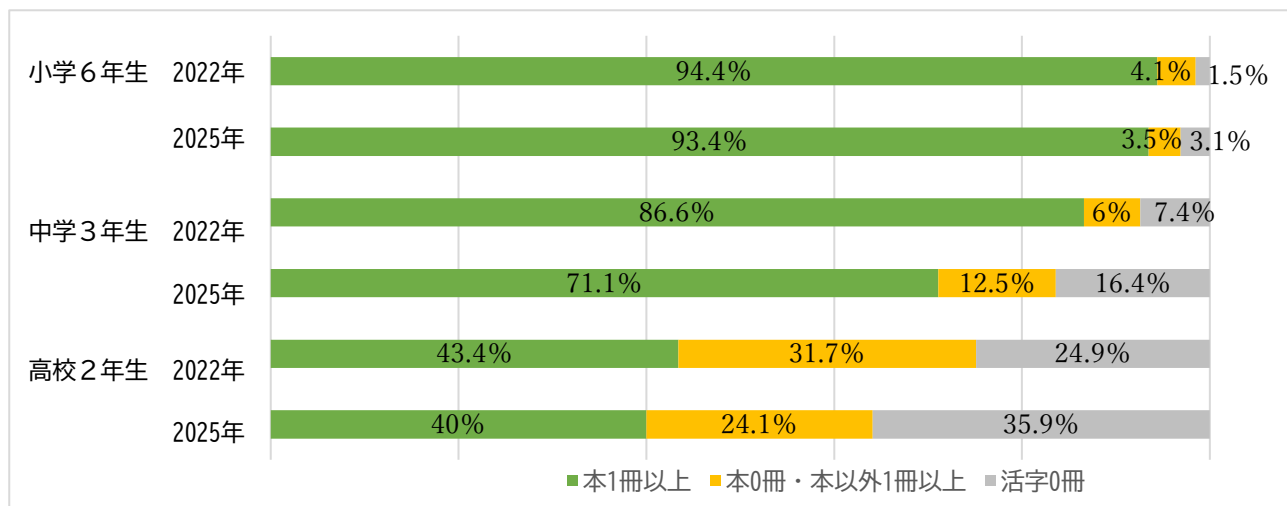
1 か月に読んだ雑誌の冊数は大変少なく、平均冊数は、小学6年生が 1.4 冊、中学2年生は 0.6 冊、高校2年生では 0.4 冊である。

問 10. 問 9 で答えた読んだ冊数のうち、電子書籍では何冊読みましたか。

	小学6年生	中学3年生	高校2年生
中央値	0 冊	0 冊	0 冊
平均値	1.5 冊	0.6 冊	0.5 冊
読んだ冊数中の電子書籍での割合	24.8%	16.5%	18.3%
電子書籍を読んだ人の全体の割合	5.0%	2.5%	2.8%

1 か月に読んだ雑誌の冊数のうち、電子書籍で読んだ冊数は、小学6年生が平均 1.5 冊、中学3年生は平均 0.6 冊、高校2年生は平均 0.5 冊である。無回答については、電子書籍で読んだ冊数は 0 冊と判断し、平均値、中央値を算出した。電子書籍で読んだ割合は、小学6年生が最も高く 24.8%、中学3年生は 16.5%、高校2年生では 18.3%であった。また、電子書籍で雑誌を読んだ人の全体から見た人数は、小学6年生が最も高く 5.0%、次に高校2年生が 2.8%、中学3年生は 2.5%であった。

活字0冊だった児童・生徒



1か月に読んだ本が0冊だった児童・生徒のうち、本以外のマンガや雑誌を1冊以上読んだ児童・生徒の全体から見た割合は、小学6年生で3.5%、中学3年生で12.5%、高校3年生では24.1%であった。2022年の調査結果と比較すると、中学3年生のみが増加している。

1か月に読んだ本が0冊だった児童・生徒のうち、マンガも雑誌も0冊だった児童・生徒の全体から見た割合は、小学6年生が3.1%、中学3年生が16.4%、高校2年生は35.9%であった。2022年の調査結果と比較すると、全てにおいて増加している。

7. 検討

今回の調査では、対象校が大幅に増えたため、各校のアンケート担当者に確認や督促等について協力を仰ぎながら調査を進めた。長期欠席や留学中、アンケート回答が困難な児童・生徒等を対象者に含めるかどうかは、各校での判断とした。また、電子書籍で読んだ冊数の問いについて、無回答や紙で読んだ冊数を越える矛盾回答が多く見られたため、設問の導線設計の修正が必要である。

調査結果では、中学3年生の不読率が大きく増え、高校2年生の不読率は6割に達した。しかし、中学3年生も高校2年生も、70%を越える生徒が「読書が好き」と回答している。勉強や塾等で忙しい子どもたちであるが、SNSや動画の視聴、マンガを電子書籍で楽しんでいるように、「電子書籍で本を読む」ことへ繋げる取組が重要となる。GIGAスクール構想により、小・中学校ではタブレット端末が1人1台整備され、また市立図書館の電子書籍サービスについても利用できるような環境が整っている。電子書籍を活用した読書への関心を高める取組の充実が必要となる。今後は、第2次成田市子どもの読書活動推進計画で進めている各取組の認識や利用状況についての調査も検討していく。